

2008 年

8 月 5 日（火曜日） - 子どもたちの限らない可能性「京都府小学校教頭会研究大会丹後大会に寄せて」 -

本日、府内各地から 200 名以上の現役の小学校教頭先生が本市にお越しいただき、平成 20 年度の京都府小学校教頭会の研究大会が京丹後市で開催されました。「生きる力をはぐくむ豊かな学校を目指して」を主なテーマに全大会・3 分科会が開催され、研鑽を深められたもので、ご参集の府内各小学校の教頭先生はじめ先生方には、日頃の小学校教育へのご尽力に深く敬意を申し上げる次第です。

ところで、最近の子どもたちを取り巻く環境には、子どもたち自身が犯罪に巻き込まれたり、またはからずも子どもたち自身が非行や犯罪をおかしてしまったり、安全安心を巡り憂慮すべき事案が報道を通じて頻繁に出てきていますが、同時に、大分県教育界に伝えられるような大変な状況や、大人たち・先生方による決してあってはならない犯罪の発生など、子どもたちを取り巻く教育環境や我々大人たちの側において、まずは深く懺悔反省し襟を正していくことからまず先に直ちにすべきであり、もとより、大人社会の在りようは、子どもたちの教育を進める上で絶えず問われる写し鏡として、日頃から我々自ら自覚を深くする必要があると思っています。

そんな中で、私として、子どもたちの「生きる力を育む」うえで大人社会の側において大切に感じますのは、周りで接する我々大人がまずは「子どもたち一人ひとりの無限の可能性を信じてあげること」だと思います。信じる中で、やがて子どもたち自らが自分のいろんな可能性に気づいていく。そして同時に、信じられることで子どもたち自身も人を信じる素直さに一層導かれ、その中でいろんな信頼関係や絆が生まれてくる、最後は自分自身を信じることができる。また、それと併せて大切なことが、当たり前のことですが、子どもたちの成長を願う真剣な愛情を注いでいくこと。それにより一層愛情豊かに子どもたちの夢や希望が生まれ、また大人たちの愛情に見守られながら、一旦何かにくじけてもまた立ち上がり夢を開拓し続けていく足腰が豊かになる。可能性への気づき。自分自身への信の芽生え。くじけても立ち上がる足腰。そうすると、子どもたちはほっといても育っていく。自分で自分を育てていく。本日の大会は「生きる力を育む」がテーマ。このテーマによせて、私なりに、こういった領域に子どもたちをいかに手引きできるか、我々にとってその手立てをしていくことこそ大切ではないかと思つれづれに感じています。